新教出版社 出版通信

2025年 6月

〒112-0014　東京都文京区関口1-44-4　Tel: 03-3260-6148　Fax: 03-3260-6198
ホームページ：https://www.shinkyo-pb.com/

あかりを灯し続けて37年

丹波市氷上町常楽797―1成松伝道所

大野顯一［著］

◆四六判・200頁・定価1430円

キリスト者であるとは・牧師であるとは――

兵庫県の小さな町。歴史があり、差別があり、人の営みがある。そして教会が立っている。牧師は町の人々と交わり、愚直に聖書の使信を語り続けて来た。時にはうつを患いながら……。

16編の説教と、自らの歩みを振り返る4回の講演「キリスト教に生き、キリスト教を生きる・成松」を収録。

【著者】おおの・けんじ氏は1948年、福島県生まれ。5歳でキリスト教と出会う。高校1年で教会に通いはじめる。高校3年で献身の思いを抱く。日本聖書神学校卒業。以後、日本基督教団神戸栄光教会、小野教会、境港教会、成松伝道所で働いてきた。

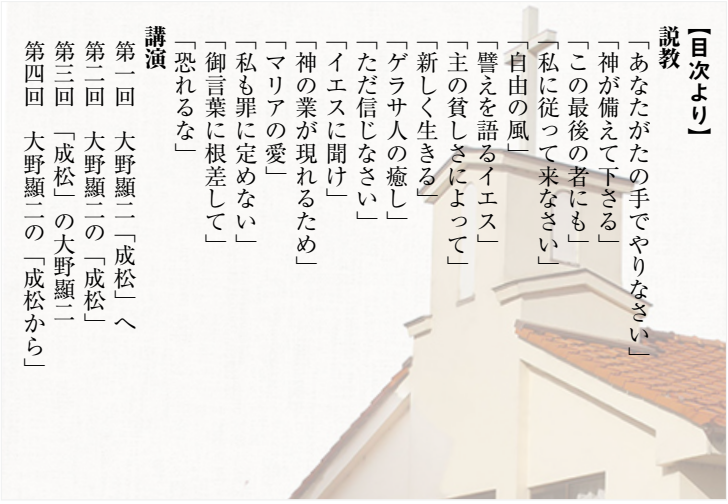
【目次より】

説教

「あなたがたの手でやりなさい」
「神が備えて下さる」
「この最後の者にも」
「私に従って来なさい」
「自由の風」
「譬えを語るイエス」
「主の貧しさによって」
「新しく生きる」
「ゲラサ人の癒し」
「ただ信じなさい」
「イエスに聞け」
「神の業が現れるため」
「マリアの愛」
「私も罪に定めない」
「御言葉に根差して」
「恐れるな」

講演

第一回　大野顯一「成松」へ
第二回　大野顯一の「成松」
第三回　「成松」の大野顯一
第四回　大野顯一の「成松から」



5月23日発売

話題の既刊書

● 3 月刊行

静寂者ジャンヌ

生き延びるための瞑想

山本賢蔵著

◆四六判・定価 3300 円

ルイ 14 世の時代を生きた一人の女性神秘思想家の生涯と思想に迫る。それは男性支配社会の中で、自己を貫き通した鮮烈な抵抗の連続だった。日本で初となるギュイヨン夫人の本格評伝。

● 3 月刊行

非戦と抵抗の教育

障害児教育の源流にあるもの

鈴木文治著

◆四六判・定価 2310 円

差別と偏見が強かった富国強兵の時代から、障害児の教育を志す少数の教師たちがいた。彼らのキリスト教的な背景を辿り直し、著者自らの教師としての経験を踏まえ、いまだ人間を有用性で計る教育に根本的な問い直しを迫る。

● 2 月刊行

ユーモア入門

人生を楽しむ 7 法則

宮平 望著

◆ A5 判・定価 2310 円

神学者カール・バルトの標語は「力強く、落ち着いて、ユーモアをもって」だった。ではユーモアとは何か？　聖書から落語、さらには古今東西さまざまなジョークを参看し、ユーモアの多様な形と本質を探る。

● 2 月刊行

戦後日本とキリスト教

敗戦の混乱期から社会制度の確立期まで

富坂キリスト教センター編

◆四六判・定価 2200 円

敗戦後の急激な社会変革に教界はどう対応したか。占領軍の宗教政策、キリスト教ブーム、共産党問題など多様な切り口から。寄稿者＝大久保正禎、落合建仁、寒河江健、李相勲、福山裕紀子、渡邊さゆり、原誠、戒能信生

５月以降の出版予定

ジャン・カルヴァン著／堀江知己 訳

イザヤ書註解Ⅱ

11章―27章

イザヤ書註解は、カルヴァンにとって初めての旧約聖書註解であり、1551年に出版された。改革者がヘブライ語の深い知識に基づいて、どれほど真剣に預言書に取り組んだかが如実に伝わってくる。詩篇註解に比肩する膨大な分量であり、邦訳では全5巻となる予定。

A5判・予価7000円

ヴォルフハルト・パネンベルク著／佐々木勝彦 訳

組織神学 第二巻

邦訳全三巻がついに完結。この第二巻では、創造論、終末論、人間学、キリスト論、和解論が独特無比な仕方で展開され、20世紀の後半における最大の組織神学的収穫であるパネンベルクの体系の、中核と全貌がここに明らかとなる。

A5判・予価9000円

▼オンデマンド復刊

ローランド・ベイントン著／中村妙子 訳

戦争・平和・キリスト者

著名な教会史家が、古代から現代にいたるユダヤ・キリスト教の伝統の中で戦争観・平和観がいかに変遷したかを辿り、キリスト教会の功罪を正面から見据えつつ、福音信仰に依って立つ平和創造の可能性を問う。戦後80年記念復刊。

A5判・定価5995円

● ４月に出た本と雑誌

自分自身と群れ全体とに気をくばりながら

松本雅弘著　メッセージ集

カンバーランド高座教会に37年間仕えた牧師の思いがほとばしる14の説教と7つの神学論考。併せて説教と牧会の舞台裏に迫る、信徒からの忌憚のない3本のインタビューも収録。牧師の働きの核心に迫る異色の書。

◆四六判・定価2200円

福音と世界

5月号　特集＝太初に言あり　聖書翻訳と日本語

◆定価660円

寄稿者：具志堅聖、岩本潤一、岡野絵里子、遠藤佳那子、藏中さやか、吉田新

ドイツ敬虔主義から学ぶこと（梅田與四男）

時評　ドイツ福音主義教会の総会に出席して（川田洋一）

連載　富田正樹、福嶋揚、田島卓、今高義也、長尾優、山口陽一、山﨑ランサム和彦

新教出版社から

出版部から

教皇フランシスコが4月21日に亡くなりました。小社は3冊の関連書を出してきましたが、3冊目を出す際、原題『政治と社会』をどうするかさんざん悩んだあげく、邦題を『橋をつくるために』としました。教皇の口癖「橋をつくる」が最適だと思ったからです。同書ではこのように語っています。「父なる神は御子を遣わされましたが、その御子は橋なのです。《Pontifex》〔教皇の意だが原意は橋を作る人〕――この言葉は、人類に対する神の態度を端的に示すものですが、これはまた、教会の、キリスト者の政治的態度でなくてはなりません。橋を架けましょう。働きましょう。」こうした言葉を語れる教会指導者を失ったことを悲しまずにおれません。ちなみに『福音と世界』の表紙を描いて下っている八木美穂子さんは篤信のカトリック信徒ですが、6月号の絵を送ってくださる際にこんなふうに書いておられました。「雨の絵になりました。教皇フランシスコが亡くなられました。以前は想像もできなかった世界の首脳陣の狂気のなかで、今となっては唯一、彼らに提言ができる常識的で、かつ人々の権利をまず考える方でした。小さき人々に寄り添う方を失い、これからの時代を思うと哀しみしかありません。」いま橋をつくるために何ができるのかを問われていると思います。（小林）

販売部から

私が洗礼を受けたのは高校生のときでした。キリスト者なら聖書を全部読まなければと思い、数か月かけて読破しました。膨大な聖書をどれだけ理解できたか？ですが当時は満足していました。小社の書籍に『旧約聖書入門』（既刊4巻、大野惠正著）があります。大野先生は聖書を分かりやすく、かつ格調高く語ることに定評があります。「5巻はいつ刊行されますか？」という問い合わせが時々あります。「手引きしてくれる人がなければ、どうしてわかりましょう」という聖書の言葉があります（使徒8・31）。大野先生のご本はまさに格好の手引きです。若い頃のように聖書を読破する気力はありませんが、先生の手引きを通しての通読は楽しみの一つです。その他にも『旧約聖書――物語られた歴史』（アンダーソン）は旧約聖書をさらに深く読み解く1冊です。「著者の流麗な筆致は、歴史的研究、考古学的調査、文学批評、聖書神学をひとつの「物語」に編み込み、900頁近い大著ながら、読者を巨大で複雑多様な旧約の世界に引き込んで飽きさせない」（図書目録より）。皆様にも良い本との出会いがあることを願っています。そう言えば旧約聖書続編の通読がまだでした。高校生気分になって早速とりかからなければと思っています。（金沢）

福音と世界

2025年 6

A5判・80頁・定価660円・送料70円
年間予約購読料（送料共）8760円

特集：パレスチナを〈視る〉わたしたち

能登半島からパレスチナを見つめる――金 在源
ストリーミングされるパレスチナ――ジェノサイドの無感性的オペレーションに同期する生と政治――北川眞也
残りの民、抵抗する〈信〉――パレスチナ連帯の反＝政治神学――守中高明
不可視のパレスチナ――五井健太郎
脱構成的政治のはじまり――リッダ闘争と船本洲治――友常 勉
霊の蜂起――パレスチナとの共通性、その見本としてのヒップホップについて――彫 真悟
わたしたちキリスト者は天皇制をどう考えるべきか1……石田 学
『イメージ、それでもなお』のアクチュアリティ……橋本一径
東北では、こんな読書会をやっています……川上直哉

【好評連載】
◆ぱやき牧師のさすらい説教録 3……富田正樹
◆異端者の世界航海 3……福嶋 揚
◆証言としての旧約聖書 14……田島 卓
◆八木重吉の聖書 23……今高義也
◆私は告白する、私の神を 27……長尾 優
◆新約釈義 ルカ福音書 42……山﨑ランサム和彦